



校長室だより

校長 菅原 定志

「伝える」ことの大切さ

10月に入り、朝晩はめっきり寒くなってきました。夏から秋へと変わったことが実感できます。9月26日(土)・27日(日)の地区新人大会、本当にありがとうございました。感染症対策のため無観客で行われましたが、本校の生徒たちは持てる力を発揮しました。女子バスケットボール部とサッカー部が準優勝、男子卓球部が第3位となるなど活躍しました。来年春の地区中総体が楽しみです。

さて、総合的な学習の時間に行う防災学習が今月から始まりました。東日本大震災で甚大な被害を受けた鹿折地区、震災から10年を迎えようとしている今、震災の記憶がない世代が中学生になるなど、その風化が叫ばれています。また、震災をどのように伝承していくのかも大きな課題となっています。そこで今年度から、東北大学災害科学国際研究所の佐藤翔輔准教授に本校の防災学習アドバイザーをお願いし、東北大学と連携して「探究的な防災学習」に取り組んでいます。佐藤准教授(私たちは普段、翔輔先生と呼んでいます)は、マスコミに登場する機会も多いですので、テレビなどでご覧になったことがある方も多いと思います。翔輔先生と相談し、今年度は震災が発生した2011.3.11に鹿折地区で避難された方からお話を聞き、避難行動や教訓などを学ぶこととしました。10月2日(金)



【東北大 佐藤翔輔 准教授】

に、11名の地域の方々に来校いただき、3.11の日についてお話をいただきました。どの方のお話も臨場感にあふれ、生徒たちは、初めて聞く震災の日の避難行動に驚きを隠せませんでした。お話を聞きながら、当時の住宅地図に時系列で避難した場所をマークしていきました。その話の中で、「あと数分ここにいたら、自分はどうなっていたか・・・」など心が締め付けられる話もいただきました。

11名の地域の方からいただいたお話を基に、二つのまとめをしていく予定です。一つは、東北大学に協力していただき、地域の方からのお話を視覚化するため、避難行動を映像化します。鹿折地区の地図が映し出された画面に11名の方の避難行動と津波の動きを時間経過でアニメーション化して行く予定です。もう一つは、聞いたお話の中で、震災を知らない世代や震災を経験していない人に、震災を「伝える」ことです。教訓や発見、気づきをどうすればわかりやすく伝えることができるのか、考えていきます。「伝える」ことの大切さにも気づいてもらいたいと思っています。



【インタビュー風景】

12月の参観日に学習の一端を発表できればと思っています。時間がないところですが、本校の生徒たちは頑張ってくれるはずです。新たな防災学習1年目です。保護者の皆様には温かく見守っていただければと思っています。